



高松市議会議員

斉藤おさむ

市政活動レポート

私たちが決める！
このまちのかたち！



ご挨拶

議員5年目を迎え、未熟ながらも議会内では中堅という立場となりました。

そんな中、自由かつ民主的な議論を尽くし、新たな形の高松市議会の実現と、高松市の発展に最大限の力を尽くすため、同志議員たちと新しい会派を立ち上げるという決断に至りました。

先例や固定観念に拘泥せず、市民目線に立ち、新しい時代に的確に対応できるよう精一杯取り組んでまいります。

引き続き、どうかご支援賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

斉藤 修

新会派を結成

●令和六年三月二十六日
新会派『自民党清新会』を結成しました。

当初、同期の四名で元の会派を脱会、直ちに一期七名が合流、さらに四名、そしてさらに四名が加わり、その日のうちに計十九名での会派が発足しました。

高松市議会 会派構成

(現在39名中)

- ・ 自民党清新会 19名
- ・ 市民フォーラム21 7名
- ・ 公明党議員会 5名
- ・ 自民党議員会 3名
- ・ 日本共産党議員団 2名
- ・ 無所属 3名

【自民党清新会・執行部三役】

- 会長 山下 誠
- 幹事長 斉藤 修
- 政調会長 住谷篤志
- 議長 大見正弘(清新会)
- 副議長 坂下且人(清新会)
- 議会運営委員長 辻 正彦(清新会)

所属議員数の関係から、議会での主要ポストは、我が会派が占めることとなります。

高松市での新たな動きを紹介

高松市中央卸売市場 水産物棟等整備事業

【水産振興・観光交流拠点化を目指した賑わい創出に向けた余剰地活用事業】
青果棟が朝日町へ移動後、現在地で水産物棟を建替えたのち、余剰地については、民間収益施設用地として活用し、観光・交流拠点を目指します。



※注：本イメージパースは想定であり、このような施設配置・機能となることを保証するものではありません。

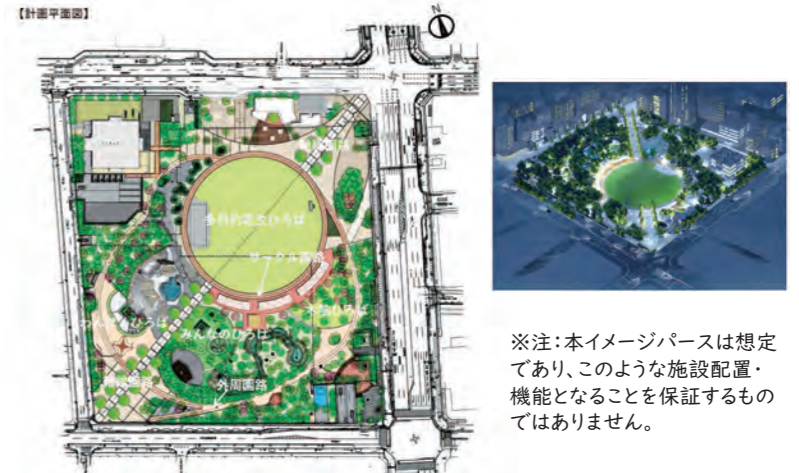
Uターン就職・移住支援

今年度よりの新たな取組です。
※要件や募集期間等がございます。

東京圏 神奈川 埼玉 千葉 から
高松市への移住で
基本額 2人以上の世帯 80万円、単身 50万円 を交付
18歳未満の子ども 一人につき +100万円
補助額：最大 60万円 (年間 20万円×3年間)
＜補助期間：令和7年度～9年度＞

高松市中央公園の再整備

中央公園再整備については、令和6年度に実施設計を行い、令和7年秋から工事に着手し、令和9年夏のリニューアルオープンを目指します。



※注：本イメージパースは想定であり、このような施設配置・機能となることを保証するものではありません。

ご意見をお聞かせください
皆様の声を議会にお届けします

高松市議会議員 斉藤おさむ

◆福岡町事務所／高松市福岡町2-27-16
TEL:087-813-2022 FAX:087-883-0120

◆牟礼町事務所／高松市牟礼町牟礼1632-54
TEL:087-845-1280

◆公式ウェブサイト

<https://osamu-saito.com>

✉: kouenkai@osamu-saito.com



【役職】(2024年度)

- 高松市議会
 - ・ 自由民主党清新会 幹事長
 - ・ 経済環境常任委員会 委員長
 - ・ 卸売市場再整備特別委員会 委員
 - ・ 議会運営委員会 委員
 - 香川県ヨット連盟 理事長
 - 香川県スポーツ協会 理事(競技スポーツ推進委員長)
 - 香川県スポーツ指導者協議会 理事
 - 高松市パラスポーツ協会 会長
 - 高松市スポーツ協会 競技スポーツ専門部 理事
 - 運動部活動・外部指導者(高松第一高校)
 - 四国ステップアップ・コンサルティンググループ 幹事
- 【資格】
中小企業診断士(経済産業大臣認定)
公認スポーツ指導者/コーチⅢ(日本スポーツ協会)
TASS(高松市アドバイザースポーツシステム)公認指導者

最大会派の幹事長としての役割は、議会内での様々な人事案を作成し、各会派と調整のうえ議決せねばならず、さらに会派内での人事もあり、とても気を使う役割です。

また、今年度の各委員会への配置で私は『経済環境常任委員会』の委員長、『卸売市場再整備特別委員会』及び『議会運営委員会』の委員となりました。

さて、今年の『経済環境常任委員会』での調査テーマは、「アートでつなぐ、まちなか回遊づくり」と題して、まちなかで開催されている音楽イベントなどを結びつけ、日常的にまちなかで音楽が鳴り響くような魅力を創出し、さらにはユネスコ創造都市ネットワークへ音楽部門での加盟を視野に入れた調査研究を行います。



※一般質問(三月・質疑)は、各議員が年60分の持ち時間を、年四回の定例会にて質問をすることができるとのことです。

令和六年

三月議会・質疑

中央公園の再整備と番町交差点を活かした中心市街地の活性化について

問 中央公園は本市中心市街地の中央に位置し、立地的優位性のあるポテンシャルの高い公園であり、工夫次第で中心市街地における新たな賑わい・交流の拠点や、本市における貴重な観光資源となる可能性がある。そのため、再整備にあたっては、周辺道路等からの歩行者動線の確保や、夜間景観の創出など、新たな魅力づくりを積極的に、中央公園エリアへの新たな人の流れをつくり出すべきではないのか問う。

答 商店街からの新たな人流を確保するため、回遊性の向上が期待できる番町交差点の平面化に向けた議論を深め、カフェやトイレ、水遊びが楽しめる噴水や、多彩なライトアップによる夜間景観の演出など、魅力

九月議会・一般質問

石材産地として、行政の意識や関わり方について

問 6月に日本最大級の石材・墓石見本市「あじストーンフェア」がサンメッセ香川で開催され、多くの来場者で賑わった。そこで正面に鎮座し、最初に目に入ったのは、墓石ではなく建材としての展示コーナーだった。これは墓石需要の低迷に悩む石材加工業者の後継者の皆さんが、力を寄せ合った合作であると聞いた。8月には第20回目となる「石あかりロード」が始まった。行政として石材産業の振興に積極的に取り組む考えを問う。

答 今年新たに後継者育成のための奨励金や、国内外での展示会への出展経費の補助などの支援を強化してきたが、さらに石工技術の向上や墓石と並ぶ主力製品の創出すべく、建材としての活用など、新たな取組を後押しできるような施策を積極的に展開していく。また、市営墓地の新規申込者に対して、墓石を通じて庵治石の利用促進に繋がるよう窓口での周知に取り組む。

的な都市空間を創出し、中心市街地の活性化に資するよう、具体的な施設整備内容を基本設計としてとりまとめ、来年度から中央公園のリニューアルに向けた本格的な整備に着手してまいります。



高松市中央卸売市場青果棟再整備後の周辺交通量について

問 現在、朝日町にて再整備が進められている高松市中央卸売市場青果棟の供用開始が近づいてきて、にわかに交通量の増加を懸念する声が多く届くようになった。市場管理課からは、様々な交通量データから、新青果市場への24時間で発生する交通量はあまり現況とは変わらない見込みであると示されているが、万一、新青果市場の供用開始に起因し、地域での交通面の悪化が発生した場合には対応策を講じることを示す必要があるのではないかと問う。

最低賃金の引き上げについて



問 賃上げのために利幅を拡大するにはコスト削減も合わせて取り組まねばならず、大変厳しい経営を余儀なくされる事業所も少なくない。利幅を確保するとすると雇用数を削ることは経営判断としてはあり得ると思われ、最低賃金の引き上げが期待通りの効果を生むのか、最低賃金水準の労働者は雇用を失うことなく、収入の増加を享受できるのか懸念がある。最低賃金引き上げを受けての本市の対応を問う。

答 最低賃金の引き上げは、物価の上昇が続く中、労働者の生活を安定させるうえで必要と認識している。しかし一方で賃金の上昇分の原資を確保する必要があり、適切な価格転嫁が促進されるよう、また販路開拓や人材育成などを支援する各種施策に取り組んでいく。



答 新青果棟に出入りする車両は、2,694台と見込んでいて、南方面は5%、西方面が70%、東方面が25%と見込んでいる。万一にも交通面での悪化が発生した場合の対応については、供用開始後においても交通量の状況把握を適宜行い、地域交通に悪影響を及ぼすような課題が生じた場合には、解決に向け、迅速に対応してまいります。



高松市ヨット競技場の利用について

問 能登半島地震による甚大な被害で、射水市で今年8月に開催が予定されていた全国中学校ヨット選手権大会の開催は事実上不可能となり、被災地支援の観点から、要請があった本市ヨット競技場での開催を検討すべきではないか。このところ、本市でのヨット大会開催は人気が高く、そのポテンシャルを活かして、誘致を本格化させ、全国規模の大会を継続的に誘致・開催し、本市のスポーツ分野でのシティプロモーションを推進すべきではないかと問う。

持続可能な公園の維持管理について

問 市では、限られた予算の中で、管理業務が実施されていると思うが、将来において持続可能となるよう、公園管理の効率化を図っていくべきだ。公園については、地域のコミュニティの場や災害時における一時避難所等、幅広い役割を有していることから、公園管理の担い手が減少する今後においても、必要な予算を確保しつつ、適切に維持管理していく必要があると考える。愛護会が管理している公園の持続可能な維持管理方策を検討していく考えを問う。

答 愛護会の皆様の高齢化や、今後の維持管理活動への不安の声が数多く寄せられ、市が担う大木化した樹木の剪定など、本市の財政負担も生じており、奈良市や姫路市などの公園管理運営指針としての「パークマネージメント計画」を参考に、公園の維持管理が図られる効果的な仕組みづくりを検討していく。



答 これまでの大会運営の実績や、周辺環境、施設面の充実が評価され、開催の申し入れがあった。被災地支援の観点からも、より、練習を重ねてきた全国の出場選手たちのためにも開催を受け入れる。また、今後においても、引き続き全国規模の大会を継続的に誘致し、シティプロモーションに資するよう鋭意取り組んでまいります。

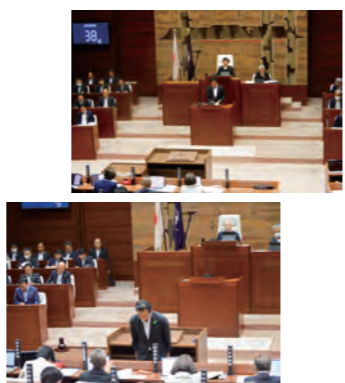


若い世代に選ばれるまちづくりについて

問 令和4年における本市から他都市への移動総人口は、転出が大きく超過。そのうち最も動きがあるのが20、29歳で、その要因は、就職時の住民票の移動と思われる。特に、若い世代がこれから子どもを産み育てやすい街としていくための支援をさらに充実させる考えを問う。

答 県内高校卒業者の約83%が県外の大学に進学している。大学を卒業した際に、市内企業へ就職を選択肢としてもらえるよう、若者のUターン就職を促進するための制度を創設していく。子育て世代から特にニーズの高い「産後ケア事業」への

地域福祉ネットワーク会議の課題への対応について



問 これからさらに高齢化が急速に進行する中、ニーズはさらに増加の一途が続くと思われる、この住民主体による支援であるサービスBを、これからも持続させていくのならば、担い手の確保は急務ではないかと感じている。高齢者を中心としたケアに加え、多様な支援ニーズに対する包括的な支援体制を速やかに構築するためにも、地域福祉ネットワーク会議の重要性と役割を再認識することが市内全ての地域で急務ではないのかを問う。

答 地域福祉ネットワーク会議は地域共生社会の実現に向けて重要な役割を担うが、一部の地域では高齢化により支援サービスの担い手の不足や、利用者の固定化が見受けられる。

新たな取り組みなど予算化し、これまで以上に必要とするサービスにつながるよう更なる充実に努めます。



小中一貫校として統合した高松第一学園の検証

問 小中一貫教育であるが故に可能となった、施設や管理職、専門職などの人材を、小学校・中学校にて互いに共有でき、省力化と合理化がはかられていることと仄聞しますが、単独の小学校・中学校の場合に比べてのメリットやデメリットの検証、高松第一学園での現況をどのように把握し、本市の学校現場へ今後どのように反映していくのか。

答 小中一貫教育の効果としては、小・中学の教職員が、共に義務教育九年間担うという意識が高まり、系統性・連続性のある学習指導が実施され、生徒指導面において、小・中学校間で情報共有が容易にできることなどがある。子ども同士の交流により、中学生への憧れの気持ちや、小学生の手本になろうとする意識の高まりがみられ、教育委員会としては小中連携教育を推進していく。

各地域に配置している生活支援コーディネーターが、実情を把握した上で支援を実施し、あらゆる生活課題にも対応できる地域福祉ネットワーク会議となるよう方策を検討する。



『高松市の人口』
409,246人(推計人口)
192,386世帯
男性 198,101人
女性 211,145人
高齢化率 28.8%
※65歳以上の割合
(令和6年10月1日現在)

高松市 公式LINE たかまつホットLINE
高松市では 飼い主のいない猫の 不妊去勢手術費用を 支援します! 1頭あたり10,000円
高松市では 飼い主のいない猫の 不妊去勢手術費用を 支援します! 1頭あたり10,000円

※本印刷物は、私の市政活動を報告するものであるため、議会での質問内容や、対する答弁を中心に構成しています。